

研修期間に合わせて、下記項目より希望する項目について研修を行う。

I 研修内容

1 基本的な皮膚の診察

- ・皮膚所見を正しくとり記載できる。

2 外用剤・創傷被覆材

- ・部位と年齢に合わせたステロイド外用剤の選択ができる。
- ・外用量と外用方法を説明できる。
- ・皮膚潰瘍の状態に合わせた外用剤の選択ができる。
- ・創傷被覆材の使い分けを理解できる。

3 局所麻酔、皮膚切開、皮膚縫合

①麻酔

- ・浸潤麻酔ができる。 ・指の伝達麻酔ができる。
- ・キシロカインの極量、極量を超えた時の症状がわかる。
- ・エピネフリン添加キシロカインを使用してはいけない部位がわかる。

②皮膚縫合

- ・結節縫合ができる。 ・真皮縫合ができる。 ・縫合糸の選択ができる。

③皮膚切開、穿刺

- ・粉瘤や膿瘍の切開、穿刺ができる。

④外科的デブリードマン

- ・皮膚潰瘍の壊死組織のデブリードマンができる。

4 皮膚潰瘍・褥瘡の治療（創傷治癒）

①創面環境調整

- ・皮膚潰瘍がどういう過程で治っていくか理解できる。
- ・治っていく過程を邪魔するものが何か理解できる。
- ・治癒過程を邪魔しているものを取り除く方法が分かる。

②湿潤療法

- ・湿潤療法の注意点が分かる。

5 薬剤の皮膚への副作用

①薬疹

- ・薬疹の機序を理解できる。
- ・薬疹の原因となる薬剤の探り方がわかる。
- ・薬疹を疑った時の対応がわかる。

②点滴漏出

- ・点滴漏出による皮膚障害の機序がわかる。
- ・点滴漏出があった時、適切な対応がとれる。

③外用剤の接触皮膚炎

- ・接触皮膚炎の機序を理解できる。
- ・光接触皮膚炎の機序を理解できる。

6 外来でよくみる皮膚疾患

以下の疾患の臨床像が分かる

- ・湿疹皮膚炎群（皮脂欠乏性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、手湿疹、アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎）
- ・虫刺症、毛虫皮膚炎 ・蕁麻疹 ・ウイルス感染（帯状疱疹、単純疱疹、尋常性疣贅、伝染性軟属腫） ・細菌感染（伝染性膿痂疹、蜂窩織炎、丹毒） ・真菌感染（白癬、皮膚カンジダ症） ・皮膚腫瘍（粉瘤、脂漏性角化症） ・熱傷、褥瘡、高齢者の表皮剥離
- ・鶏眼、胼胝

7 皮膚科に紹介する状態とタイミング

- ・皮膚科に紹介すべき状態や経過を理解できる。
- ・見逃さないよう気をつける疾患の種類がわかる。

8 真菌顕微鏡検査

- ・顕微鏡の設定ができる。
- ・検体を適切な部位から取ることができる。
- ・真菌がいるか判断できる。

9 液体窒素による冷凍凝固法

- ・疣贅治療に用いる冷凍凝固法を行える。

10 パッチテスト

- ・パッチテストを行える。
- ・パッチテストの判定、結果の解釈ができる。

11 ダーモスコピー入門

- ・よく見かける疾患のダーモスコピー所見を理解できる。

12 皮膚病理入門

- ・正常皮膚の病理像を理解できる。
- ・病理所見をとれるようになる。
- ・病理に親しむことで、皮膚で何が起きているのかを考えながら臨床をみるようになれる。

II 指導医

氏名	卒業年	専門領域	認定医・専門医・指導医
松本 祥代	平成元年	皮膚科一般	日本皮膚科学会専門医